



発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

上の写真は公民館屋上にある「励みの鐘」です。とんがり屋根は前田利長公が愛用した銀鯰尾形兜（ぎんなまずおなりかぶと）をイメージしたもので、老子製作所から寄贈していただいたものです。ところで鯰尾形兜は、滋賀県の戦国武将で前田家と強いつながりがあった蒲生氏郷（がもううじさと）も愛用していたそうで、氏郷が利長に贈ったという説があるそうです。

金屋町がふるさと眺望点に

ポケットパークに「ふるさと眺望点」の銘板が設置されました。

富山県景観条例では、富山県

内の優れた景観を眺望できる地点を広く県内外の人々に紹介するために、「ふるさと眺望点」として指定することとしており、金屋町は優れた景観を評価され昨年4月に指定されました。なお眺望景観は3分野に分類され、自然景観11地点、四季の景観11地点、まちの景観8地点が指定されていて、金屋町は「まちの景観」での指定です。また銘板はステンレス板で作るのが一般的なのですが、金屋町だけは鋳物のまことに因み銅鋳物で作られました。

金屋学講座

先例に見る金屋町の将来像

どういうまちを目指す？

4月22日、公民館において宮崎一郎さんを講師に招き久しぶりに金屋学講演会が開催された。宮崎さんは富山県地域振興局観光課に在籍し、北前船新総曲輪夢倶楽部にも所属して、歴史と伝統を活かしたまちづくりの事例を全国規模で研究されています。そ



のような専門家の視点から各地における成功や失敗の事例をあげ分かりやすく、金屋町の将来に向けて多くの示唆をいただきました。

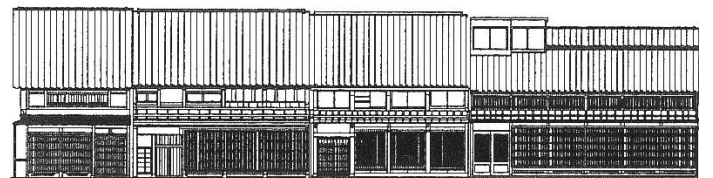
まちなみ保存では、保存すべき意匠の基準を定めておくことが必要、どんな町にするのか議論に根差した方向性を定めておくことが必要、目標を描いたらそれを実現するための仕掛けを作ることが必要、など。

地域活性化の成功事例に共通するキーワードは、地域性、個性、創造性。テレビ番組で「ブラタモリ」「ツルベの家族に乾杯」「世界町歩き」などに人気があるのは何を示唆しているのか？

歴史と伝統を大切にしながら、活力ある金屋町づくりに、町民全体が一体となって取り組んで行きたいものと考えます。

講演・金屋町の歴史と町並み

聞いてきました～般若陽子



4月23日、建築士会高岡支部総会記念講演の案内をいただき、金屋町の伝統的家屋調査にかかわった金沢工業大学の山崎幹泰教授による「高岡金屋町の歴史と町並み」を聞いてきました。特に印象に残った部分を書いてみます。

400年前の1611年、千保川河畔に5箇所の吹場と7人の鋳物師の住居を建設して始まった町は、拝領地を中心に先ず南北に町並みが作られ

た。
旧金屋本町の南部家・藤田家から現在のポケットパークあたりまでの今の石畳通りを中心に、古地図から西側と東側の家並みの家屋数の変遷が下表のように読み取れる。

	正徳2年 1712	享保13年 1728	弘化4年 1847	明治8年 1876	平成22年 2010
西側	27	37	40	28	47
東側	30	35	44	25	34
合計	57	72	84	53	81

明治8年が極端に少ないのは、拝領地の特権が無くなったことと、製品が鉄から銅へ変化し美術品の需要が伸びたことから、より広い土地を求めて横田村請地や通り西側奥の方へ移転する鋳物師が増えた為と推測される。



金屋町の今後については、以下の3点を考えていくべきと指摘があった。

- ・ 町並みの何を残し、何を伝えていくか。
- ・ 町の枠組みを残し、間取りを時代に合わせる。
- ・ 軒の連なり、壁面線の維持、限定された空間をどう有効に使うか。

**金屋町開町400年記念
シリーズ
金屋町と高岡鋳物の歴史**

⑨ 梵鐘シェア日本一

梵鐘では高岡市の老子製作所が国内90%のシェアを持つと言われている。明治から昭和にかけて活躍し、梵鐘の名人と言われた7代目の老子次右衛門がその基礎を築いた。梵鐘の場合は単に鋳造技術だけでなく、美しい形と共に鳴り渡る響きや音色を出すのに奥深いノウハウがある。

日本では第二次世界大戦時に出された金属類回収令により、文化財に指定されているものなど一部の例外を除き数多くの梵鐘が供出され鋳潰さ

れた。これにより、日本の鐘の9割以上が第二次世界大戦時に失われたという。

戦後の復興時にその反動で日本中の寺院から注



文が殺到し、繁忙を極めた時期があった。

広島平和の鐘

芸術院会員で人間国宝の香取正彦が老子製作所において造った

串田保二展

鋳物資料館では、6月8日から7月11日まで御印祭を挟んで約1ヶ月間、第3展示室において串田保二展を開催します。

串田保二さんは金屋古町の串田佐久一家の次男で、高岡市石瀬に在住の彫刻家です。かつては日展や日本彫刻会展などに所属していましたが、現在は退会し富山県彫刻家連盟などに所属して活動しています。展示する作品は、梵鐘などの模様を作るときに用いる伝統技法「へら押し」によるレリーフ拓本を予定しています。

祝！開町400年



金屋町エ

第3展示室は常時入場無料です。この機会に地元作家の作品をぜひご覧ください。